
とある作家の執筆法。

保科 郁

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある作家の執筆法。

【Nコード】

N0255D

【作者名】

保科 郁

【あらすじ】

タイトルのままです。因みに、真面目な内容でもコメディでもありません（、、）

僕は作家だ。

と言っても、普通の物書きとは違うかもしれない。

大抵の作家は自分の脳内でアイデアをひねり出し、それを四苦八苦して文章にしていくなのだろう。

だが、僕は生まれてこの方 小説を書く為に、そんな事をした覚えが無い。ある事さえ行えば、すらすらと文章が生まれてくるのだ。

その文章は現実味があり、視覚、聴覚、果ては味覚まで再現されていると世間では大好評のようだった。僕にはよく分からないが、読者が喜んでくれているのなら、それでいいのだろう。

そんな僕の最新作は、オムニバス形式の人間模様だ。色々な人間が感情豊かに、リアリティを持って描かれていると雑誌などで取り上げられ、こちらも人気作になりそうである。僕の担当である木谷もそう確信しているようだ。

だが今回、珍しい依頼が入った。ケーキ視点の話を書いてほしいというものだ。今まで猫や昆虫、犬視点の話は書いた事があったが、無機物であるケーキは初めてだ。

もちろん書く事に不安はない。しかし、初めての経験だけに新鮮かもしれない。

「先生、依頼の物です……」

木谷が皿にケーキを盛り付け、僕の目の前に差し出してきた。僕は甘いものが嫌いだ、今回は仕方がない。無理矢理 喉に押し込む。

けれど、予想に反してそのケーキは素晴らしく美味しかった。さすがは木谷、料理の腕は一流だ。まあ だからこそ、僕の担当になったのだが。

僕の担当である木谷の仕事は少し変わっているかもしれない。僕の食事まで担っているのだから。

僕は木谷が皿を片付ける間もなく机に向かい、PCを打ち出した。ものの数分で原稿が出来上がる。僕はすぐにそれをコピーし、木谷に手渡した。

「さすがは、先生」

木谷は満面の笑みでディスクを受け取り、丁寧に鞆にしまい込む。ケーキと皿を手早く片付けると、会社に戻るつもりなのか身仕度をして扉に向かった。出口の前で振り返り一礼する。

「それでは、また後程。新作の方のお食事をお持ちします」

そう言つと、静かに部屋を出ていった。

僕は一人残された部屋の中、次はどんな味 作品になるのかと心踊らせ、木谷の食事を待つのだった。

（後書き）

えと、これは

小説家になろうの秘密基地の、『みんなの掲示板』に書き込みさせていただいた

『物書きさんに質問！』

用に、さらっと書いたSSです。

良かったら掲示板を覗いて、質問に答えて下さると嬉しいです（
）

私のは、なんだかオチが弱いかもしれないですね（
、
；
）
微グロですかね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0255d/>

とある作家の執筆法。

2010年10月12日05時29分発行